

57 タカブシギ

(チドリ目)

兵庫県ランク:B

Tringa glareola

繁殖個体群:無 越冬個体群:B 通過個体群:B

環境省ランク:VU(絶滅危惧Ⅱ類)

種の概要

北海道では旅鳥、本州、四国、九州では旅鳥または冬鳥、沖縄では冬鳥。兵庫県では主に3-5月と8-11月に見られるが、冬にも記録がある。河口、河川、湿地、池沼、水田、ハス田などに生息し、昆虫類や甲殻類、ミズ類などを採食する。



写真提供:松重和太

国内分布

北海道、南千島、本州、佐渡、見島、四国、九州、対馬、男女群島、屋久島、伊豆諸島、小笠原群島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、(姫路市)、明石市、(西宮市)、(伊丹市)、豊岡市、(加古川市)、(赤穂市)、三木市、(川西市)、小野市、(三田市)、(養父市)、(丹波市)、南あわじ市、(朝来市)、(淡路市)、(加東市)、たつの市、稲美町、(播磨町)、(神河町)



主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

新規追加種。

かつては県南部および北部で30-50羽前後の群れも稀ではなかったが、現在は単独または数羽、多くても10羽程度の群れにすぎない。県南部では少数が越冬している。

保護上の留意点

生物の多様性を守ることを目的とした定期的な池干しなどによるため池の維持管理が重要。草を刈り、水を入れる休耕田があるが、本種には貴重な採餌場となっている。



写真提供:但馬野鳥の会